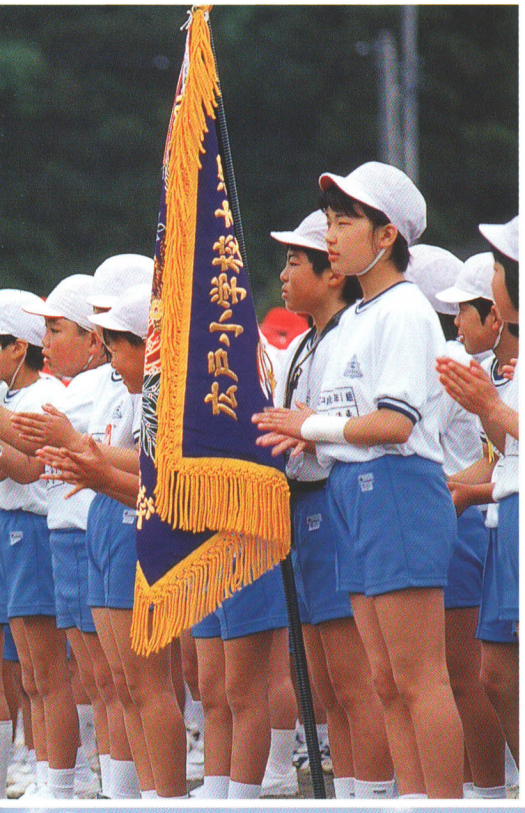
住んで良かったと思える村。快適な暮らしは、ここからはじまる。

地域の発展を支える道づくり

とれたての新鮮な野菜が並ぶ

村では村民生活の安全性を確保するため、自然や社会、経済や文化といった条件を満たした住みよいまちづくりに努めています。

私たちの日常生活を支え、地域発展の大動脈となっているのが道路です。村の背骨である国道118号や、暮らしの輪が広がる国道294号など、ますます利便性が増しています。現在でも道路の整備が進められ、冬期間の積雪による渋滞を考慮し、鳳坂峠トンネルの早期実現が課題となっています。また、観光の振興にともなって発生するゴミ問題にも村では真剣に取り組み、自然環境保全のために村民、地域、行政が一体となって活動に取り組んでいます。

かけがえのない「水」は、村が守っていきたい大切な財産です。一部に井戸水の利用はあるものの、村(公)営の普及率が92.3%に達しています。下水道については、農村総合整備モデル事業により2地区が整備され、平成4年度からは農業集落排水事業により平成20年度を目標に下水道整備を進めています。下水道供用地区では水洗化が進み、区域内の水洗化率は90%となっています。

子どもから高齢者まで、誰もがにこやかに暮らすことのできる環境をめざし、昭和62年に分譲がはじまった大山ニュータウンでは、首都圏からのUターンや村内からの転居などで人口の増加も図られ、村はこれからも潤いとやすらぎに満ちた空間づくりを目指していきます。